



湿地：持続可能なくらしの糧

湿地は人の健康と繁栄にとって、なくてはならないものです。湿地は私たちに水を供給し、食料の供給を確保し、生物多様性を維持し、洪水から守り、二酸化炭素を吸収します。世界中の多くの人々の雇用を生み出す湿地は、都合のいいことに世界各地にあり、本当に持続可能なくらしとは何かを示すものとなっています。

10億世帯以上の生計を支える湿地

湿地は世界中できわめて広範な仕事を支えてきました。

- アジア、アフリカ、南北アメリカの10億世帯以上が、おもに米の栽培と加工で生計を維持しています。
- 6億6000万以上の人々が、漁業と水産養殖によって生活しています。商業的魚類のほとんどは、沿岸湿地で繁殖あるいは産卵し、消費される魚の40%は水産養殖によるものです。
- 世界中の旅行者の半数は、湿地のある地域、特に沿岸地域で滞在を楽しんでいると推計されています。旅行・観光業は、世界の雇用の8.9%に当たる2億6600万人の仕事を支えています。
- 世界中の多くの場所で、河川と内陸の水路が、人や物資の運搬に重要な役割を果たしています。アマゾン川流域では、41の船会社によって毎年1200万人の乗客と5000万トンの貨物が運ばれています。
- 数々のネットワークが世界中で淡水を運び、汚水を処理し、同時にかなりの数の労働者を雇用しています。たとえば、バンコクの首都圏水道公社は5300人以上の職員を雇っています。
- ボトル入り飲料水業界は、2013年に700億ガロン（約175億リットル）以上の水を世界中に届けました。ダノンは、エビアン、ボルヴィック、ボナフォン、マイゾーンなどの主要銘柄を販売し、世界中にある自社の飲料水業務に3万7000人以上を雇用しています。
- 植物、果物、ヨシ、草の収穫と加工も、特に開発途上国の湿地やその周辺で、かなりの雇用を直接生み出しています。

現状：悪循環

湿地がさまざまな仕事や貴重な恩恵を生み出しているにもかかわらず、1900年以降世界中の湿地の64%が姿を消しました。今も残っている湿地の多くでは深刻な劣化が進み、直接湿地に頼って生活している人々—しかもその多くは極めて貧しい人々—が、さらなる貧困に追いやられています。その上、2025年までに35%の人々が水不足に直面すると推定されています。これは、「湿地(wetland)」は「不用の地(wasteland)」であるという誤解がもたらした結果です。

解決方法：好循環

湿地が飲料水や生物多様性、食料やその他多くの恩恵を常にもたらすようにし、同時に人々が人間らしい生活を送れるようにするという事は、矛盾するものではありません。実際、新たな「国連持続可能な開発目標」では、貧困の削減のためには、湿地などの生態系を守り、再生することが必要であることが強調されています。



持続可能性は、その目標を達成するため、発展の持つ3つの側面を一体化します。

- 経済的發展：人々が自分自身の収入と財産を築くための方法や手段を保証します。
- 社会的發展：社会集団同士の協力、尊重、信頼を促し、男女の平等を推進します。
- 環境保護：人間生活と自然環境がどちらも恩恵を受けるよう、地球生態系を保全し、再生します。

持続可能なくらしを築く方法：重要な要素は何か？

- 1 ニーズを把握するために、人間を中心としたアプローチを利用します
 - 不測の出来事、自然災害、内戦などにいかに人々が影響を受けやすく、また、影響を受けにくくするにはどうしたらいいかを調べます
 - 価格と働く機会の重要な季節変動について理解し、別の選択肢がないかどうか探ってみます
 - 将来的に利用可能な資源にはどのようなものがあるか調べてみます
- 2 さまざまな種類の「資本」を利用できるようにします
 - ヨシ、魚、米などの実際に湿地から収穫できる産物
 - トレードオフや優先順位づけを理解するための技能や知識
- 3 これらさまざまな「資本」を提供して状況を変化させることができるのは誰かを見極めます
 - 生計を立てることができる良好な健康状態
 - 地元の湿地利用計画に対する声
 - 基本的なインフラ、設備、道具
 - クレジット、現金、マイクロローン

- 行政、公共機関、NGO、地元コミュニティなどの主要な活動主体を一体化させます
- 状況を変化させるために、誰がどのような役割を果たすのかを決めます

事例紹介：ブラジル

タマールのウミガメプロジェクト

タマールは、ブラジルに生息する絶滅危惧種のウミガメ5種の保護活動をしている組織です。ブラジルの大手石油会社ペトロブラスを主要スポンサーとするこの組織は、世界中の生物保全プログラムのモデルになりました。このプロジェクトの内容は以下のとおりです。

1980年に地元の漁師たちを雇い、彼らがいづも漁を行う海岸にあるウミガメの産卵場所を、産卵期間中にパトロールしてもらったのが始まりです。これによってウミガメとその卵の採取を防止しました。

ウミガメの採餌、産卵、生長にとって重要な場所にある23のセンターのネットワークを作りました。

活動には1300人以上の人々が直接参加し、そのうち約85%が地元の沿岸地域に住む人々でした。その中には漁業者も400人いて、



現場でのさまざまな活動に参加しました。25か所の漁村の人々を雇用し、ビジターセンター業務やショップの店員、ガイド、保護教育活動、販売用のタマール衣料の製造などの仕事に従事してもらいました。

事例紹介：セネガル

持続可能なくらしを確保するためのマングローブの再生

セネガルのカザマンス地域とシヌ・サルーム地域には、今も18万5000ヘクタールのマングローブ河口域が残っています。しかし、1970年代以来、4万5000ヘクタールが失われました。健全なマングローブは、効果的な塩水過システムとして機能し、暴風雨から海岸を守り、魚の稚魚の生育場所にもなります。

ここで、セネガルのNGOオセアニウムと協力関係にあるダノンとライブリフッド・カーボンファンド(Livelihoods Carbon Fund)の支援による、世界最大のマングローブ再植林プロジェクトが進行しています。プロジェクトの内容は以下のとおりです。

1万ヘクタール以上の土地に7900万本のマングローブの木を再植林しました



水田の再生を進めています

エビ、カキ、貝類とともに、年間1万8000トンにのぼる魚類の増産が見込まれています

20年間で50万トンの二酸化炭素を吸収すると考えられる植林を行います

地元の350村から20万人が活動に参加しました

本文書に表明されている見解や名称は執筆者によるものであり、ラムサール条約や条約事務局の公式の見解を表すものではない。教育または非営利の目的での、本文書の全体あるいは一部の複製はかかるかたちでも、引用元を明示すれば著作権保有者の特別な許可なく作成して構わない。条約事務局は、本文書を引用した印刷物や資料の送付を歓迎する。特に記載のない限り、本文書はクリエイティブコモンズの表示・非商用・改変禁止ライセンスによって保護されている。

ラムサールファクトシートは、ラムサール条約事務局より電子フォーマットおよび必要に応じて印刷物として、英語、フランス語、スペイン語(ラムサール条約の3つの公式言語)で公開されています。

ラムサールファクトシートは次のサイトからダウンロードできます：
www.ramsar.org/resources

科学技術検討委員会(STRP)に関する情報は次のサイトで見ることができます：
www.ramsar.org/about/the-scientific-technical-review-panel

ラムサールファクトシートに関するさらなる情報や、ファクトシートの執筆者と連絡を取る方法を知りたい場合は、ラムサール条約事務局(stp@ramsar.org)までお問合せください。

© 2015 ラムサール条約事務局

ラムサール条約



一般にラムサール条約として知られる「国際的に重要な湿地に関する条約」は地球規模の政府間条約で、湿地と湿地資源の保全と賢明な利用のための国内行動と国際協力の枠組みを提供するものです。単一の生態系に焦点を当てている唯一の地球規模の条約です。

